

小森「リスロンG40Pアドバンス」導入

今野印刷（仙台市）

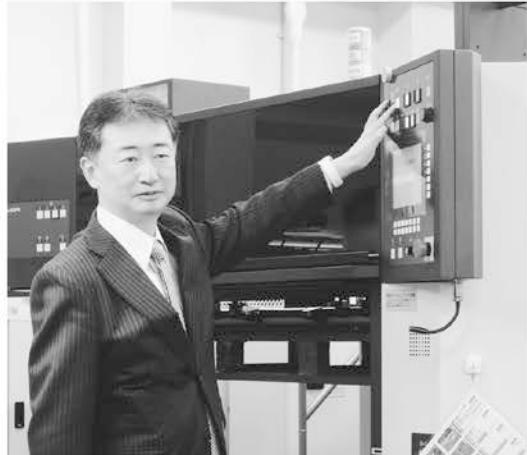
東北エリア1号機

LED-UV水なし印刷で体制強化



導入したリスロンG40Pアドバンス

環境対応と高生産性で競争力向上



橋浦社長がスタートボタンを押し始動

今野印刷は長年にわたり水なし印刷を実践しており、2009年に一般社団法人日本WPA（日本水なし印刷協会）に加入、カーボンオフセットにも取り組むなど、環境対応を積極的に進めていく。



安全を祈願して修祓式

は予測している。

クトの提案を受けた際、

今野印刷が導入したリースローンG40Pアドバンスは、最高印刷速度1万5000回転。ワンパスで高品位な両面印刷とストレート多色印刷を1台で実現する。LED・UVランプは2灯搭載している。オンライン品質検査装置、自動見当装置も採用しており、最新の自動システムでスキルレス化を実現する。

クの提案を受けた際、同社が注力している「見える化」の考え方方に合致している機能であると判断した。「今まで作業のスタート/ストップは日報形式でオペレーターが入力していたが、この作業が不要になる。また、ひとつずつの仕事を見ていくことで生産性の改善に向けた分析が可能になる。どの作業を工夫すべきかを文字を基に語ることができるのは最大のメリットだ」と評価する。

Aを通じ国内クレジットを利用してオフセット（相殺）される。冊子にはバタフライCO₂ロゴを表示している。

リストンG40Pアドバンスも水なし印刷仕様であり、LED・UVと水なし印刷を組み合わせた先進的な取組みとなる。

今回の導入により、既設のLED・UV水なし印刷機と合わせペワダーレスを実現、より作業効率が高まった完全水なし印刷工場となつた。

修祓式後、橋浦社長ならばに河内和史取締役生

産事業部長より導入の経緯やLED・UV水なし印刷について説明が行われた。橋浦社長は「水なしは環境対応という理解になるとと思われるが、われわれは生産性の高さにも着目している。生産性が高いとは短時間で良い製品をつくること。これはオペレータの負担軽減となり、職場環境の改善にも結びつく。環境面と生産性の改善を追い求めるべく、LED・UV水なし印刷体制に踏み切った」と自社の方向性を説明。

げていく思いを述べた。
今回の導入は、KOMORIの菊全判8色機から
の入替えであり、機種選定は小ロット化への対
応を目的としている。

「印刷需要全体が小ロット化しており、小回り
の利く印刷機の方が現状に即していると考えた。
新台は高速回転でも非常に安定している。昨年稼
働を開始したA全判のLED-UV印刷機とリス
ロンG40Pアドバンスの体制により8色機で行つ
ていた需要を取り込むことができる」と橋浦社長

に期待を寄せている。河内氏も「A全判機は2年目の若手を機長にしている。リストロンG40アドバンスにも若い人が「登用する」と明かにした。印刷機の自動化機だけではなく、オペレータを手間や苦労から解放するLED・UV水なし印刷だからこそできることだと言える。

今野印刷ではまた、小森コープレーションのリューションクラウド「KP・コネクト」を新たに導入した。

橋浦社長はKP・コ

橋浦社長は最新設備の導入について、「大変な時期だからこそ生産性の差が企業業績の差に直結していく。事業環境を考えてみると、打つべき手を今打つておかなければならぬ。このような時期に手を打てることは競争力向上という観点から非常に強い一手になると考へている」と話しており、今後もLED・UV水なし印刷の環境と生産性における優位性を強みとして差別化を図っていく構えである。

水の管理や乾燥に起因する事故などを省くことで、「社員を楽にさせる」、動き方改革とともに

5年ほどかかると言わ
るが、スキルレスで人材
育成に費やす時間が短縮
されると自動化の効果

のバージョンは「ベーシック」であるが、近く「プロ」の運用を開始する予定となってゐる。

A black and white photograph showing several men in business attire gathered around a large industrial printing press. They are looking down at the machine, examining its components and discussing its features. The scene is set in what appears to be a factory or exhibition hall.

現在、K.P.-コネクトは「同社が注力している『見える化』の考え方方に合致している機能であると判断。今まで作業のスタート/ストップは日報形式でオペレータが入力していくが、この作業が不要になる。また、ひとつずつの仕事を見ていくことで生産性の改善に向かう分析が可能になる。どの作業を工夫すべきか数字を基に語ることができるのは最大のメリットだ」と評価する。